



「厚めがいい。たっぷりすくって」とアドバイスする西岡さん(左)



「自然との距離が近いと、脅威にもさらされやすい」と蓬萊さん



「2階の高さは、建築時期を推定するポイント」と解説



地域を一望できる「野村夕陽の丘」で記念撮影

門出を彩る一枚を、自分の手で 伝統の技に触れる手漉き和紙体験

ふるさと教育の一環で、町内小学校の6年生が卒業証書用の和紙漉き体験を行いました。11月20日には内子小・大瀬小の児童が、和紙工房ニシオカの西岡芳則さんから原料や作業工程について教わった後、簀桁で紙料をすくう作業に挑戦。「水がとろとろしてる」「思ったより重たい」と伝統工芸を肌で感じながら、世界に一枚の卒業証書を真剣な表情で仕上げていました。

想定外が起こる災害、事前にイメージを 気象予報士が語る防災の心構え

「内子町社会福祉大会」が11月15日、共生館で開かれました。多彩なバザーや保育園児による踊りの披露、社会福祉功労者表彰を実施。記念講演では気象予報士の蓬萊大介さんが登壇し、災害級の大雨が多発していること、雨雲レーダーの活用方法などに触れ、備えと早めの判断の重要性を伝えました。最後に「自分は大丈夫と思い込まないで。念のために、一つでも行動を」と呼びかけました。

町並みを歩いて学ぶ、文化財の見方 文化講座「コミカレ」フィールドワーク

第7回「コミュニティ・カレッジ in 内子」が11月15日、上芳我邸などで行われました。愛媛大学准教授・佐藤大規さんが、江戸と明治の町家の違い、座敷の配置のルールなどを解説。参加者は町並みを歩き、建物から昔の暮らしを紐解く方法を学びました。佐藤さんは「構造には理由がある。記録に残らない文化をモノや痕跡から知る、という見方も楽しんで」と語りました。

愛媛サイクリングの日に合わせて 秋晴れの小田を自転車で満喫

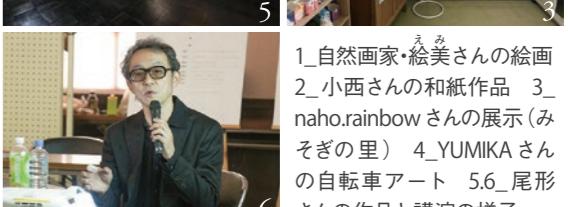
自転車で町内の名所を巡る「内子グループライド」が11月22日に行われ、約50人が参加しました。コースは体力や熟練度によって選ぶ3種類。小田支所を起点に、初心者向けコースは上川地区へ紅葉を楽しみながら走り、グラベルコースは未舗装路やアップダウンのある林道野村北地線を抜けます。秋の小田地域を満喫した後はゴールで軽食や足湯を楽しみ、疲れを癒しました。

アートと内子の魅力を味わう9日間 「内子藝術祭」を初開催

地域の文化資源を生かしてアートを展示する「内子藝術祭」(内子町観光協会主催)が10月18～26日の間、内子・五十崎地域を舞台に開かれました。この催しは地域全体をギャラリーと見立てて各所に作品を展示し、町内を巡りながらアートを楽しむ取り組みです。初開催の今回は町内外から9組のアーティストが参加。内子町ビジターセンターやみそぎの里など7会場で、絵画や版画、映像などさまざまな作品が公開されました

18日にはオープニングイベントが五十崎凧博物館で開催されました。総括プロデューサーの齋藤宏之さんは「内子には創作活動への熱い思いを持つ土壤がある。アートでまちが盛り上がりなければならない」とあいさつ。続いて抽象画家・尾形純さんの作品紹介や、現代美術家・小西ハレさんと映像作家・Ko-ki Karasudaniさんのトークセッションがあり、制作の背景やこだわりが解説されました。

また期間中は五十崎出身の画家・上岡美平さんの作品展、凧文字の企画展、和紙創作展など催しが盛りだくさん。来場者は各会場で多彩なアートを楽しみました。



1_自然画家・絵美さんの絵画
2_小西さんの和紙作品
3_naho.rainbowさんの展示(みそぎの里)
4_YUMIKAさんの自転車アート
5_6_尾形さんの作品と講演の様子

内子町代表監査委員・赤穂英一さんに 全国町村監査功労者表彰

町村自治の発展への功績を称え、赤穂英一さんに10月16日、全国町村監査委員協議会から表彰状が贈られました。赤穂さんは平成30年4月に内子町代表監査委員に選任され、令和5年10月から愛媛県町村監査委員協議会長も務めています。表彰を受け「委員や事務局と厳正な監査に努め、町には指摘に真摯に対応してもらえた。健全なまちづくりに貢献できたのでは」と述べました。



表彰状を手にする赤穂さん

豊かな想像力で、体いっぱい自分で表現 小田小で「演劇ワークショップ」

表現手法や演技の楽しさを学ぶ「演劇ワークショップ」が11月11日、小田小学校で開かれました。内子町と連携協定を結ぶ四国学院大学の西村和宏教授と、演劇コースの学生らが指導。与えられたテーマを、発想力豊かにジェスチャーで伝えるゲームなどに挑戦しました。西村さんは「コミュニケーションが苦手な子も、演技を通してその大切さを感じてほしい」と話しました。



動物、それとも乗り物……何を表しているでしょう？